学校番号	111

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	佐々木寛司他（著者）「高等学校　日本史Ａ　最新版」　（清水書院）						
副教材等	星沢卓也（発行者）「日本史のアーカイブ」　（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ➢ 歴史という時間軸を感じるため、歴史の流れや時代背景を意識した授業を行います。
- ➢ 歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付こう。
- ➢ 日本史を多面的・多角的に理解するために、世界史・地理との関連を重視します。
- ➢ 生徒の視点での素朴な疑問や生活感覚に即した疑問に主体的に取り組んでいきます。

２　学習の到達目標

- ➢ 現代の社会やその諸課題は、地理的歴史的に形成されたものであることを理解し、歴史的思考力を身につける。
- ➢ これからの国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史を学ぶ意義に気付き、近現代を中心とする日本の歴史に対して関心をもって意欲的に追及し、今後の国際社会や日本社会を形成していく自覚をもって考える態度を身につけているか。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択でき、歴史を探究する学び方を身につけている。	近現代史を中心とする日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート チェックテスト	定期考査 ワークシート チェックテスト	定期考査 ワークシート チェックテスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近代の日本と世界	・国際環境の変化と幕藩体制の動揺 ・明治維新と近代国家の形成 ・立憲政体の成立と国際的地位の向上	○ ○	○	○	○	a:開国から第一次世界大戦前までの歴史展開と自身との結びつきに関心を高め、意欲的に追求しようとしている。 b:幕末から大正時代初期の政治、経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:開国から明治維新を経て、近代国家が形成される過程を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 チェックテスト ワークシート
2学期	大戦期の世界と日本	・第一次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦と日本	○ ○	○	○	○ ○	a:協調外交の崩壊から全体主義へと転換し、米英等との戦争に突入していった歴史事象に関心を深める。 b:両大戦期の国内政治、経済、社会の動向やアジア近隣諸国及び欧米諸国との関係に着目し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:両大戦期における我が国の動向を世界的な経済情勢や各国の対応の動きと関連付けて理解している。	定期考査 チェックテスト ワークシート

3学期	現代の世界と日本	・戦後政治の動向と国際社会 ・経済の発展と国民生活の変化 ・現代の日本と世界	○	○ ○	○	○ ○	a: 現代の社会が歴史的に形成されてきたものであり、特に近現代の歴史と深いかかわりをもつという点を把握し、関心をもっている。 b:第二次世界大戦後の世界の政治や経済の枠組みの変容や国民生活や意識の変化について、国際環境の推移に留意して多面的・多角的に判断している。 c: 必要な諸資料を収集、分析し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を理解している。	定期考査 チェックテスト ワークシート レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。